

解答例

適性検査 I

1	問題 1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>可能性の高い順</th> <th>野鳥の名前</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>オオルリ</td></tr> <tr><td>2</td><td>ムクドリ</td></tr> <tr><td>3</td><td>カルガモ</td></tr> <tr><td>4</td><td>コジュケイ</td></tr> <tr><td>5</td><td>カワセミ</td></tr> <tr><td>6</td><td>ハクセキレイ</td></tr> <tr><td>7</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td></tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">} 7～9は空らん</p>	可能性の高い順	野鳥の名前	1	オオルリ	2	ムクドリ	3	カルガモ	4	コジュケイ	5	カワセミ	6	ハクセキレイ	7		8		9		35点				
	可能性の高い順	野鳥の名前																									
1	オオルリ																										
2	ムクドリ																										
3	カルガモ																										
4	コジュケイ																										
5	カワセミ																										
6	ハクセキレイ																										
7																											
8																											
9																											
問題 2	<p>6月に確にん数0の野鳥を観察するためには（ 2 ）月にもう一度行く （最もよいと考えた理由）</p> <p>2月は、6月に確にん数0の3種類の野鳥がすべて確にんでき、その中でも一番確にんがむずかしいオオタカの確にん数が1年の中で最も多いから。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>ア 鳥の図かん</td> <td>イ 観察したい野鳥の大きさや色、飛び方などの特ちょうを調べておくこと</td> </tr> <tr> <td>ウ そう眼鏡</td> <td>エ 野鳥をすぐに見ることができるように練習しておくこと</td> </tr> </tbody> </table>	ア 鳥の図かん	イ 観察したい野鳥の大きさや色、飛び方などの特ちょうを調べておくこと	ウ そう眼鏡	エ 野鳥をすぐに見ることができるように練習しておくこと																						
ア 鳥の図かん	イ 観察したい野鳥の大きさや色、飛び方などの特ちょうを調べておくこと																										
ウ そう眼鏡	エ 野鳥をすぐに見ることができるように練習しておくこと																										
2	問題 1	<table border="1"> <thead> <tr> <th>学年</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>回数</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>（求め方）</p> <p>例えば、最も当番の回数が少ない3年生を2回とすると、4年生は少なくとも3回になります。さらに、5年生と6年生はそれよりも多くなるので少なくとも4回は当番があることになります。各学年の回数を合わせると13回となり、1年間に12回をこえてしまいます。だから、3年生の回数は1回となります。</p> <p>次に、ある学年の当番と当番の間には、必ずほかの2つの学年が入ることになっています。次の当番は早くても3ヶ月後になります。だから、1年間に1つの学年ができる当番は多くても4回までです。</p> <p>6年生の当番を一番多い4回とすると、3年生と6年生を合わせて5回になります。</p> <p>残り7回を4年生と5年生で分けます。最大の4回をこえずに5年生の方が多くなるように分けると、4年生が3回、5年生が4回となります。</p>	学年	3	4	5	6	回数	1	3	4	4	30点														
	学年	3	4	5	6																						
回数	1	3	4	4																							
問題 2	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>月</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> <td>10</td> <td>11</td> <td>12</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>学年</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>6</td> <td>5</td> </tr> </tbody> </table>	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	学年	4	6	5	3	6	5	4	6	5	4	6	5
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3															
学年	4	6	5	3	6	5	4	6	5	4	6	5															

3	問題 1	<p>木の枝が水路を10メートル流れる時間をはかる方法で、わき水の水量をはかることとします。そのために、次のように行います。</p> <p>お父さんが1メートルの物差しを使って、水路のはばと水面から底までの深さをはかります。</p> <p>次に、水路の横の道に1メートルの物差しを水路とすい直に置きます。そこを木の枝を流したときに時間をはかり始めるスタート地点とします。そこにみなみさんが、まきじゃくの一方を合わせます。お父さんは、そこから水路にそってまきじゃくをのばし、10メートルの地点に印を付けます。その地点を木の枝が流れてきたときにはかり終えるゴールとします。</p> <p>みなみさんは、ゴール地点にストップウォッチを持って立ちます。</p> <p>お父さんは、スタート地点の上流から木の枝を1本流します。その後、木の枝がスタート地点を通ったときにみなみさんに向かって声と身ぶりで合図します。</p> <p>みなみさんは、その合図からストップウォッチで時間をはかり始め、木の枝が自分の前のゴール地点を通過したときにストップウォッチを止めます。</p> <p>この時間を記録します。</p> <p>同じことをあと4回行い、平均を取ります。</p>	35点
	問題 2	<p>資料2から、雨水が地面にしみこみ、水を通さない地そうのところからわき水となって出ていることが分かります。さらに、ほそう道路や建物のところでは水がしみこんでいかないことも分かります。</p> <p>1995年と2007年を比べてみます。資料3から、2007年の方がこう水量は多いので、わき水の地点が減った理由はこう水量が減ったからということではないことが分かります。また、資料4ではほそう道路が増え、資料5では田や畑が減ったことが分かります。</p> <p>このことから雨水がしみこむ面積が減ったため、地面にしみこむ水の量が減り、わき水の地点が減ったと考えられます。</p>	

適性検査Ⅱ

1	問題 1	自分の表現力不足のため、固有の形がなく、流れてしまう性質をもつ物質を表す言葉を、母から引き出すことができなかつたから。(59字)	35点
	問題 2	省略	65点